

2018年度 関西独自消費材の放射能検査結果

➤ 関西独自材の放射能測定結果

生産者	対象消費材	産地	検査日	検査機関	Cs134	Cs137	セシウム合計
竜王町稲作経営者研究会	竜王米(みずかかみ)	滋賀県	10月4日	生活クラブ	ND/0.4	ND/0.4	ND/0.8
あかとんぼ(米沢米)	ひとめぼれ(玄米)	山形県	10月5日	榊理研	ND/1.0	ND/1.0	ND/2.0
あかとんぼ(米沢米)	コシヒカリ(玄米)	山形県	10月5日	榊理研	ND/1.0	ND/1.0	ND/2.0
あかとんぼ(米沢米)	つやひめ(玄米)	山形県	10月5日	榊理研	ND/1.0	ND/1.0	ND/2.0
ウインナークラブ	パクパクウインナー	徳島県	10月26日	生活クラブ	ND	ND	ND/6.0
(株)米麦館 タマヤ	パン原料小麦(イワイノダイチ)	北海道・愛知・岐阜	10月18日	生活クラブ	ND/0.4	ND/0.4	ND/0.8
白州森と水の里センター	大根	山梨県	11月9日	生活クラブ	ND	ND	ND/6.0

【検査結果の見方】 単位：Bq/kg 「検出値/検出下限値」で示します

半減期の長いセシウムに絞って検査をしています。セシウム134、セシウム137の合計値で「検出限界値」を記載します。

検出値欄のNDは、検出限界値未満での不検出を表します。

※13年4月から生活クラブ飯能DC検査室に導入した5号機はセシウム137とセシウム134の合計値で算出することにより感度を高めています。そのため、連合会の5号機による検査ではそれぞれの数値は表示されません。

生活クラブ連合会の放射能測定結果

➤ 11月は739検体の放射能検査を実施しました。

11月(10/22～11/18)の放射能検査は739検体で、そのうち680検体(92.0%)は放射性セシウム不検出でした。検出はいずれも関西では取扱いのない消費材で、生椎茸4品目17検体、舞茸3品目10検体、レンコン5品目26検体、かぶ1品目1検体、さつまいも1品目2検体、黒磯米1品目1検体、岩手一関米1品目1検体、もち米1品目1検体の17品目・59検体でした。詳細はWebサイトをご覧ください。

検査の詳細情報は、生活クラブ連合会のWEBサイトの放射能検査結果Web検索をご参照ください。

単位：Bq/kg

生活クラブの自主基準値		
食品区分	基準値	検出下限目標
すくすくカタログ掲載食品 (乳幼児食品含む) 6月開始	不検出	1
飲料水※	5	1
牛乳(原乳)・乳製品①※		
米	10	2.5
鶏卵・鶏肉・豚肉・牛肉		
乳製品②※・青果物・魚介類・加工食品	25	6
生椎茸	50	10

国の基準値	
食品区分	基準値
乳幼児食品	50
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100

※飲料水には、ミネラルウォーターや緑茶以外にウーロン茶

紅茶、山草茶、麦茶、抹茶も含まれます。

※乳製品①は、生活クラブの牛乳を原料とする乳製品

乳製品②は、他の牛乳を原料とする乳製品

自然エネルギーってどんなもの？ その特徴を知る

生活クラブで共同購入している「生活クラブでんき」は、自然エネルギーの割合が高い電気です。将来的には自然エネルギー100%にすることを目指して、全国の自然エネルギー発電所から電力を調達しています。

■自然エネルギー発電の種類と特徴

自然エネルギーによる発電にはどんな種類のものがあり、どんな特徴があるのでしょうか。

●太陽光発電

太陽光エネルギーを電力に変換します。エネルギー源が太陽光なので、日当たりさえあれば設置でき、屋根や壁などのスペースを利用することもできるので、導入しやすいシステムです。気候条件により発電出力が左右されるデメリットがあります。

●風力発電

風のエネルギーを電力に変換します。陸上風力のほか、洋上風力発電もあります。大規模に発電できれば、風が吹く限り夜間も稼働できるので大きな発電量が見込めます。設置には場所の選定などの課題をクリアする必要があります。

●小水力発電

河川の水を貯めることなく、そのまま利用する発電方式です。河川や農業用水を有効利用しています。

大規模なダムによる従来の水力発電も自然エネルギーではありますが、ダムがもたらす環境への負荷も大きいので、それとは分けて「小」水力と呼びます。小水力は、元々の川から支流を引いて、落差を作ることで発電をして、また元の川に水を戻すなどの方法です。

●地熱発電

地熱を利用して発電します。火山帯に位置する日本では、安定供給が期待できるエネルギーです。立地地区は公園や温泉などの施設が点在する地域と重なるため、掘削の許可などの課題があります。

●バイオマス発電

動植物などから生まれた生物資源を「直接燃焼」したり「ガス化」するなどして発電します。何を燃料にするかでさまざまなバイオマスがあり、例えば製材端材や木質チップを燃料に発電するのが木質バイオマス発電です。燃やすという点では化石燃料による発電と同じですが、化石燃料よりも遥かに短いサイクルでもとのバイオマスに再生可能です。また、CO₂を吸収して成長する生物資源を燃料としているので、CO₂の排出と吸収はプラスマイナスゼロと考えられます。

■ベース電源と変動電源を組み合わせる必要性

「生活クラブでんき」では、地熱以外の「太陽光」「風力」「小水力」「バイオマス」による電気を、全国60か所の自然エネルギー発電所から調達しています。電気を安定して使うためには、発電量(供給)と消費量(需要)のバランスをとりながら発電していく必要があります。自然エネルギーでいえば、天候により出力が変動する太陽光や風力は「変動電源」、安定した発電が期待できる小水力や地熱やバイオマスは「ベース電源」に分類できます。両方をうまく組み合わせながら使っていくことが必要です。

■日本は自然エネルギーの潜在能力に恵まれた国

日本は、世界的に見ても自然エネルギー発電の潜在能力の大きい国です。しかし、国全体で見ると、自然エネルギーによる発電はまだまだ少ない状態です。いまだに国全体の電力の8割は、地球温暖化の負荷をかけながら発電する火力発電で、せっかくの自然エネルギーの潜在能力が活かしきれいでいません。消費者の側が「生活クラブでんき」のような自然エネルギー比率の高い電力をすすんで使い、全国の自然エネルギー発電所や生産者を応援していくことが、広がりへの一歩となります。

生活クラブでは、省エネを推進しながら、「生活クラブでんき」を通して、自然エネルギー中心の電力を選んで使う活動をすすめています。「生活クラブでんき」を使う人も、つくる人も増え、原発にたよらず人と自然が共生する「持続可能な社会づくり」への想いが着々と広がっています。



建設中の庄内・遊佐太陽光発電所（山形県）

詳しくはWebサイトをご覧ください。→

